

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：呉市立天心中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
呉市立天心中学校	5	91人
呉市立天心小学校	9	191人

(R3.11.1現在で記入)

1 指導上の課題

- (1) 生活科・総合的な学習の時間についての課題
- ・調べ学習とまとめが中心であり、課題が更新されたり、探究のプロセスが連続したりする単元づくりが不十分である。
 - ・教師から課題を提示することが多く、児童生徒が主体的に探究できるような授業展開になっていない。
 - ・学習内容と、本中学校区で育成を目指す資質・能力との関係が明確でない。
- (2) 児童生徒についての課題
- ・地域や社会に主体的に関わりようとする意識が十分でない。
(小学校 65.7%, 中学校 50.0%)
 - ・自らの考えを表現することに課題がある。
(小学校 68.5%, 中学校 62.5%)

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

① 研究テーマ

自他の知をつなげ、粘り強く学ぶ児童生徒の育成
～対話・探究・貢献を軸とした授業づくりを通して～

② 研究のねらい

プロジェクト型学習の視点から、教科等を横断しながら、「実生活・実社会の課題解決（社会へ還元）する学習」「『将来こうなるためにはどうしたらいいだろう？』と考え、探究する学習」を行えるよう、これまでの実践の充実または新規の単元開発を進める。こうした取組を通して、対話を通じて自他の知をつなげ、自ら設定した課題について粘り強く探究する児童生徒を育成する。

(2) 資質・能力の設定について

育成を目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「自主性、主体性」と設定し、その中でも「思考力・判断力・表現力」に焦点を当て、具体的な姿を次のように想定した。

○思考力・判断力・表現力

後期	(実社会・実生活の中から) 問いを見いだし、効率的・効果的に分析して、根拠を明らかにしながら、論理的に表現することができる。
中期	(実社会・実生活の中から) 問いを見いだし、効率的・効果的に分析して、根拠を明らかにしながら、順序立てて表現することができる。
前期	身のまわりから問題を見付け、集めた情報から考え、理由を明らかにしながら、相手に伝えることができる。

(3) 取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

○探究的な学習に向けた課題と方策の整理

- ・探究課題が児童生徒自身のものとなっていないことや目的が

不明確なこと、探究のサイクルが繰り返されていないこと等に対する方策を立て、それに基づく取組を行った。

- 外部人材を活用した授業展開または新たな外部人材の発掘
 - ・呉工業高等専門学校で教授や学生を招いた討論会の開催
 - ・地元事業所やボランティア団体と連携した調べ学習
 - ・SDGsの学習に係る環境保全アドバイザーや町づくり学習に係る地域おこし協力隊等の外部人材との関係づくり
- 学びのフレーミング（枠づくり）
 - ・単元ルーブリックに基づく目指す姿を児童生徒と共有
 - ・呉版単元構想シートを活用した単元設計
- オンラインでの他校との交流
 - ・中学校：熊野町立熊野中学校
 - ・小学校：神戸市立成徳小学校
- 学校行事の活用
 - ・防災集会や文化祭を発表の場として位置付けた。

【小中連携の取組】

- ① 児童生徒の関わり
 - 総合的な学習の時間における小中交流の場の設定
 - ・天心まちづくり討論会（小学5・6年、中学1年）
 - ・エコバッグ作成会（小学6年、中学1年）
 - ② 教職員の関わり
 - 総合的な学習の時間に係る指導体制の工夫
 - ・小学校4～6年生及び中学校1～3年生におけるT・T指導（学級担任と研究推進リーダー）
 - 小中合同研修会の開催（全8回）
 - ・「本質的な問い」や「探究的な学習」に係る理論研修
 - ・小中合同授業研究会の開催とそれに係る学習指導案の検討
 - ・教育課程編成に向けた教科担当の連携
 - 小中合同の専門部会による取組
 - ・振り返りシートの交流・工夫（学び部会）
 - ・小中合同の校外学習、清掃活動、避難訓練の計画立案・実施（心・からだ部会）

【資質・能力の評価】

- 校区として、年度当初に、育成を目指す資質・能力を設定し、小中一貫研究推進計画にも位置付けた。
- 小中それぞれ1回、単元ルーブリックを活用した総合的な学習の時間の研究授業を実施した。研究協議では、児童生徒の具体的な姿から単元ルーブリックに基づく協議を実施した。
- 授業ごと、学期ごと、単元ごとに振り返りをまとめ、評価に活用した。振り返りの視点を、その単元の評価規準に沿った内容とし、小中で内容を合わせた振り返りシートを作成した。また、生徒が作成したプレゼンテーションや掲示物やその作成過程を記録することで、評価に活用することができた。

3 実践事例

○探究的な学習に向けた課題と方策の整理

課題に対して、9つの方策を立て、総合的な学習の時間を中心に、その方策を具体化する取組を実施した。これにより、授業づくりの視点を明確にすることができ、小中それぞれの強みを活かしながら実践を進めることができた。

課題	方策
探究課題が児童生徒自身のものとなっていない。	①探究課題に対し、開いた問いづくりを行い、発達段階に応じて分類させる。
	②生徒に探究課題に係る基礎データを整理させ、データから「問い」を導き出させる。

目的が不明確であり、情報収集が形式化している。	③実現したい姿を明確にし、その実現に必要な資源を検討しながらプロジェクトを立ち上げる。「問い」を追究するために、必要かつ適切な情報収集を選択・実行させる。
学んでほしいことを児童生徒に順に与えている。	④体験で終わる取組を廃止する。 ⑤「問い」の事前検討時に、児童生徒の発想を想定した対応案を準備する。
「まとめ・表現」の取組が停滞している。	⑥積極的に失敗させる。 ⑦目的に応じた他者（専門家、行政、地域住民等）と協働する場を仕組む。
探究のサイクルが繰り返されない。	⑧提案型のゴール設定とする。 ⑨「問い」の階層の整理をする。

○外部人材を活用した『天応まちづくり討論会』の開催（方策⑦）
 小学5・6年生及び中学1年生が、呉工業高等専門学校教授や学生、地域の方々と一緒に、これからの防災やまちづくりについて交流する場を設定した。各学年がこれまで防災について学習してきた成果をプレゼンテーションし、それについてのパネルディスカッションを行った。また、これからのまちづくりについてグループディスカッションを行い、この討論会で学んだことを次の探究のサイクルに活かす授業展開とした。



○学びのフレーミング（方策①・④）

探究のサイクルを意識した単元設計を行う際、ICT機器を活用しながら次のような枠づくり（フレーミング）を行った。

- ① 学びの足跡が分かる1枚ポートフォリオ化した振り返りまとめシートの作成
- ② 単元の評価規準に基づく毎授業の振り返りの視点の明示
- ③ 情報収集の1つとしての体験学習
 また、呉市の全小中学校が活用している「呉版単元構想シート」を使い、「三階層の問い」や「探究課題」、学びを深める「しかけ」を明確にして単元づくりを進めた。これによって、単元の見通しやそれぞれの探究のサイクルのつながりを分かりやすくまとめることができた。



○総合的な学習の時間に係る小中交流の場の設定（方策③・⑦）

中学3年生の「Change the Futureプロジェクト～天応SDGsウィーク～」において、「プラスチックゴミ削減のため、身近なものを再利用して日々の生活で役に立つものが作成できることを伝えたい」という生徒の思いを受け、小学6年生へのエコバッグ作成会を企画・運営させた。下級生にも分かりやすく伝えられるよう表現方法を試行錯誤しながら工夫し、協働的・主体的に取り組

む姿が見られた。



4 研究の成果と課題等

(1) 成果

① 学校評価アンケート

令和3年度学校評価アンケート（中学3年生）における肯定的な回答（%）

項目	課題意識	整理・分析	表現
5月	79.4	67.6	67.7
12月	94.1	85.3	76.5
差	+14.7	+17.7	+8.8

解決しようとする課題（ねらい）について、「なぜだろう」「やってみよう」「たぶん、こうではないだろうか」と主体的に考えられる生徒が増えてきている。また、情報を比較したり分類したりして、自分なりの考えを表現できる生徒が増えてきている。

② 児童生徒の変容

○「思考力・判断力・表現力」が身に付いたと判断できる発言や記述が増えた児童生徒の割合（令和4年1月）

小学6年生	中学3年生
66.7% (24人中16人)	71.9% (32人中23人)

○相手意識・目的意識をもち、計画を立て、粘り強く情報収集やまとめ・表現に取り組めるようになってきている。

A児童の記述：情報では、現在の様子がよく伊豆山の状況が分かりにくかったです。だから、ニュースなどを見て調べました。手紙では、どのようにしたら読みやすいか、絵を入れた方が文だけにならず良いかなどを考えて工夫しました。

○具体的なデータから自分の考えを導き出せるようになってきている。

A生徒の記述：都市に暮らす人は現在、世界の人口の半分以上である55%であり、2050年には68%と予想されている。「人口が集中することによって、①住宅が不足して住居費が高くなる、②大量のゴミが発生する等の問題が出てくるかもしれない。だから私は、大都市の設備を他県に移し、集中した人口をばらけさせたいと思う。そのとき、事前に地方がどのようになっているのかをよく調べるのも必要だと思う。

(2) 課題

① 各学年で扱う問い・単元づくりが単発的	学年間の系統性の整理が不十分
② 総合的な学習の時間と各教科等との関連付け	各教科・領域等との関連付けが未整理、年間指導計画が未整理
③ ルーブリックの活用	ルーブリックを活用した「単元末」の具体的な姿の想定不足、児童生徒との目指す姿の共有不足

(3) 今後の改善方策等

① 各学年で扱う問い・単元の再構築	学年間の系統性を整理、探究的な学習に向けた課題に対する「方策」の再整理
② カリキュラム・マネジメントの充実	データ活用や各教科等による防災学習との関連付け、年間指導計画への位置付け
③ 指導と評価の一体化	評価方法の工夫、ルーブリックによる見取りの充実